

岡部史著（ブイツーツリユーション・1080円）

「甘味の地域文化誌」との副題がある。著者は、昨今のスイーツブームよりずっと前からスイーツに並々ならぬ関心を示し、『古きよきアメリカン・スイーツ』（平凡社新書）などの著書もある。本書は『お菓子のうた 甘味の文化誌』（ブイツーツリユーション）に続く、お菓子の短歌を紹介するものであるが、「郷土菓子」への着目により、いっそうなつかしい味わいをもつ一冊となった。

トラピストクッキー（北海道）にはじまり、明がらす（岩手）、美少年切腹饅頭（福島）、空也最中（東京）、月の雫（山梨）、けんけら

（福井）、さまざま桜（三重）、くらわんか餅（大阪）、路芝（島根）、十六夜（熊本）など、興味深いお菓子が次々と登場する。その名の由来や昔ながらの製造方法、またお菓子をめぐる歴史など、おもしろいエピソードに加え、おもしろい写真まで楽しむことができる。

神はゐてもゐなくても良しみちのくのかやの実せんべい食ひつつ思ふ  
高野公彦『水苑』  
お供への生八ッ橋の肉桂の香りし  
みじみ処暑の夜更けぬ

河野裕子『日付のある歌』